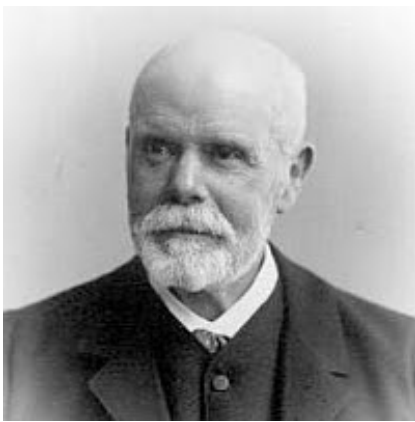


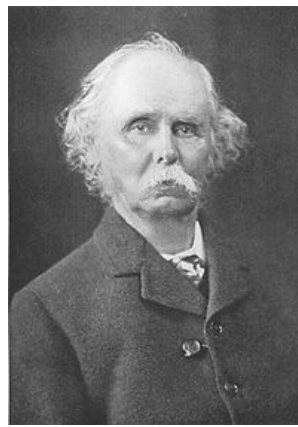
4. 市場の調整過程

想定される価格よりも高く売れそうな時、企業はどうするか？

「まず、価格調整はワルラス過程、数量調整はマーシャル過程と呼ぶ」
「市場の調整メカニズムなのに、経済学者の名前がついているんですね。」



ワルラス (1834-1910)



マーシャル (1842-1924)

「改めてみると、ワルラスが10歳だけ年上なんだね。マーシャルはもっと後の人かと思ってた。」

「どうしてですか。」

「ケインズの師匠というイメージがあるので。」

「価格調整というのは、ある価格のもとで、供給量と需要量をみて、需要量が大きければ価格が上がり、供給量が大きければ価格が下がるというメカニズムだ。基本的に供給者が価格を決めると考えれば、需要が大きければ値上げするし、売れなければ値下げで対応するということだ。」

「マーシャルは、企業は価格を頻繁に変えられないと考えた。ケインズの価格粘着性につながる考え方だね。」

「企業は価格が変えられないとしたら、どうするか。」

「売上を変えるということですか。」

「そうだね」

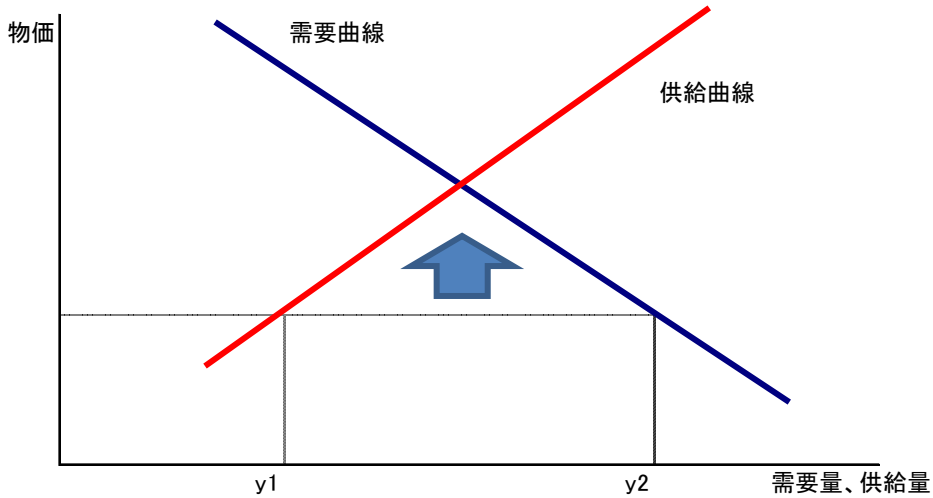
「ある販売額で、企業が売りたい価格と消費者が買ってほしい価格がわかる。売る数量が少ないと高くても買いたいという人が多いはずで、その場合はもっと売ろうとするということ。価格じゃなくて数量で調整する」

「値段を変えるのと、数量を変えるとどっちが簡単かということですね」

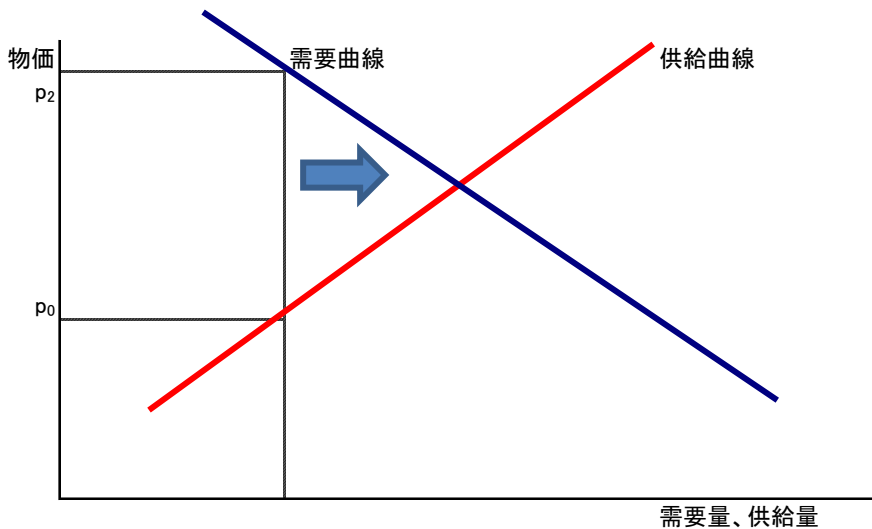
「価格調整だとうまくいって、数量調整だとうまくいかない場合とか、その逆とかもある。需要曲線と供給曲線の傾きの違いによる。でも、上に書いたようなメカニズムがわかっているれば、自然と答えは出るはずだ。」

「もう一つ蜘蛛の巣過程というものもある。価格を前提にまず数量を調整する。その次にその数量で売れ残りが出ないように価格を調整する。次にその価格を前提に数量を調整する、という過程だ」

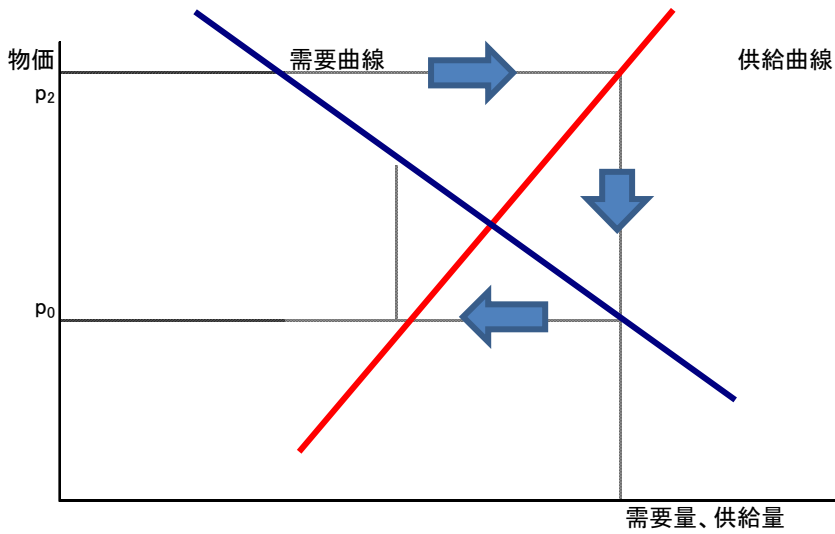
ワルラス過程



マーシャル過程

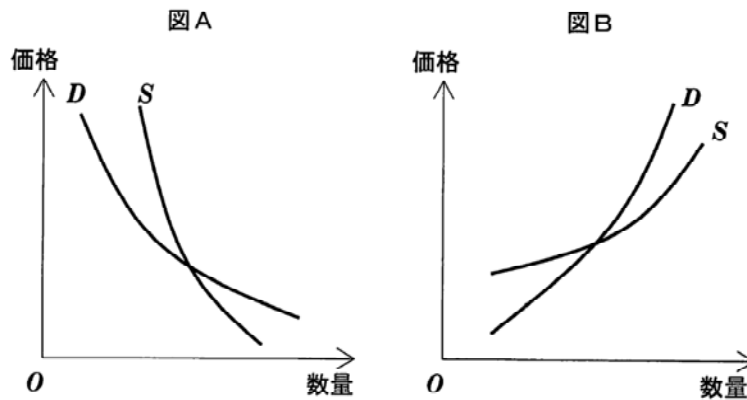


蜘蛛の巣調整過程



【問1】 以下の図は需要曲線 D と供給曲線 S を表している。

このとき、市場均衡の安定性に関する記述のうち、正しいものはどれか。



- (1) 図Aでは市場の調整過程がマーシャルの過程をとるとき、市場均衡は安定である。
- (2) 図Aでは市場の調整過程がクモの巣の過程をとるとき、市場均衡は不安定である。
- (3) 図Bでは市場の調整過程がマーシャルの過程をとるとき、市場均衡は安定である。
- (4) 図Bでは市場の調整過程がクモの巣の過程をとるとき、市場均衡は不安定である。